

以外の抗精神病薬を中止し、高プロラクチン血症確認したうえでプロモクリプチンを投与した。プロモクリプチン投与10日目に月経招来し、同時に精神症状も消失し、その後周期的病相の発現も阻止された。

検査成績では、亜昏迷期の脳波の軽度徐波化、視床下部一下垂体系の機能不全を表すとされるアンドロゲンインデックスとエストロゲン分画の異常が認められた。この異常は月経招来後正常化していった。

本症例は10カ月間周期的病相を反復し、検査上、視床下部一下垂体系の機能不全が推測された。抗精神病薬は有効でなく、むしろ視床下部一下垂体系機能不全の増悪因子となった。高プロラクチン血症改善目的でプロモクリプチンを投与することで、内分泌ホメオスタシスの歪みが是正され、周期的病相の出現を阻止することができた。

鳩谷は本例のように周期的に精神症状を反復する症例を、非定型精神病の枠内でとらえ青年期の女子にみられた月経周期に関連することを指摘し、周期性精神病と呼んでいる。

山下は個々の症例の臨床的観察と臨床精神病理学的考察から、「若年周期精神病」という概念を提唱している。本例でも、症状の急速な変化、反復性、精神症状として亜昏迷と興奮・多動がみられること、月経との関連、追想不良などこの基準に合致している。

次に治療法について、本疾患群に対して抗精神病薬が無効かつ悪影響を及ぼすことでは多くの研究者の意見は一致している。山下らは、カルバマゼピンが病期の抑制に有効としている。ドパミン受容体作動薬であるプロモクリプチンが著効を示した症例は、本例を含めて5例が報告されているが、その臨床像にはカルバマゼピン有効群と比較して差異が認められた。プロモクリプチン有効群では、発症年齢が遅い、病相が双極性で連続している、無月経が多い、精神運動興奮が高度、脳波異常がみられる。プロラクチン高値等の特徴がみられた。症例数が未だ少ないため確実なものではなく、抗精神病薬の影響も考えられるが、治療法の選択において有用な知見と思われるため報告する。

17) 各種精神疾患の SPECT 所見

武内 広盛・種市 愈	基 (国立療養所犀潟 病院精神科 (" 研究検査科) (" 放射線科)
不破野誠一・藤田	
林 茂信	
西沢 芳子	
佐藤 文夫	

脳血流測定に利用される single photon emission

tomography (SPECT: 単光子放射型コンピュータ断層撮影法) は、体内に注入された放射性同位元素が放つ γ 線を検出し、コンピュータで処理して断層画像を得るもので、すでに脳血管障害や脳腫瘍などが診断に資されている検査法である。精神科領域でも漸次知見が集積されつつあるが、まだ結論が確立されるまでにはかなりの紆余曲折が予想される。

今回我々は、senile dementia of Alzheimer type (SDAT), 脳血管障害後遺症 (cerebro-vascular dementia: CVD), schizophrenia (S), mood disorder (MD), alcohol dependence syndrome (ADS), epilepsy (EP) などの各種精神疾患に SPECT を実施したので、その所見の一端を報告する。

〈各種精神疾患と SPECT 所見の関係〉① ある程度経過した SDAT (AD: Alzheimer's disease を含む) では、両側頭頂・側頭葉の灰白質、白質への集積低下が認められる。しかし発病後間もない患者—特に AD では、むしろ全般に集積が良好である。② 多発性脳梗塞を基礎にした CVD では、多く両側前頭葉への集積が不良である。③ S では、概括的には後頭部に比して前頭部への集積が相対的に低下して (hypofrontality: hypof) いることが特徴であるが、これには発病後の経過期間や病型との関連が想定される。経過期間との関連では、発病初期には hypof が余り目立たない患者があり、10年を境にしてこの傾向が顕著になる。病型との関連でも、発病後かなりの期間を経ているにもかかわらず hypof の傾向を示さない type の患者もある。④ MD は比較的所見に乏しいが、S と同様の hypof の傾向を示す患者がある。そして少数例ではあるが、病態の改善とともにこの所見も消失する場合がある。⑤ ADS では、飲酒歴の長い患者の一部に、前頭葉内側領域への集積低下が示されることがあり、この所見は短期間の断酒では消失しない。⑥ 発作間歇期の EP では、概して全般に集積が良好との印象であるが、発作焦点の明らかな部分でんかんでは、焦点への集積が上昇しているようにみえる。

〈結論〉① SDAT, AD, CVD を含む脳器質性精神障害では、疾患の病態が脳血流動態という見地から解明され、臨床診断を確実にするとともに、その結果を治療の利用に資することができる。② S や MD, ADS, EP などでも何らかの所見を得ることが多く、今後症例を集積することで、比較的単純に思える脳血流動態からこれら疾患の特徴を疾患単位、もしくは症状との関連で分類できる可能性がある。つまり精神疾患の病態を、全く新たに解明できるかも知れない。③ γ 線の energy の違

いを利用し、2核種同時収集の可能性が期待できる。④将来は脳代謝の測定が、PETのように受容体レベルで掌握できることが期待される。

18) 定量的脳波分析による塩酸ピフェメランの薬効(予報)

佐藤 聡・佐藤 新
金子 晃一・中山 温信(新潟大学精神科)
田中 政春 (三島病院)

はじめに:

高齢化社会の到来により、向知性薬 *nootropics* の開発に対する関心が高まっているが、この *nootropics* を投与すると、抗鬱薬や抗精神病薬を投与した時とは異なる特有の脳波変化、即ち徐波、速波の減少、および α 波の増加がみられる事が定量的脳波分析によってわかってきた。

今回われわれは *nootropics* の一つである塩酸ピフェメランを、脳波上著明な徐波化を呈していた6名の脳血管性痴呆患者に投与し、画像化脳波システムである *dynamic brain mapping system* を用いて投薬後の定量的脳波分析を試みた。尚、今回は脳波変化のみに注目し、臨床症状の変化に関する厳密な定量化はおこなっていない。

対象と方法:

三島病院に入院中の男子4名、女子2名の脳血管性痴呆患者6名を対象とした。年齢は、59歳から83歳、平均年齢70.5歳であった。症例の選択にあたっては、入院後2カ月以上経過して既に症状の変動が少なく、かつ意識障害の無い患者を対象とした。

塩酸ピフェメランは、1回50mgを1日3回、1日量では150mgを投与した。

脳波記録は、投薬前、投薬1週間後、投薬2週間後に、臥位・安静・閉眼・覚醒状態で実施した。電極は10/20法による16誘導を用い、パワースペクトル法を用いて、各誘導での δ 波、 θ 波、 α 波、 β 波を定量化し、その出現割合を算出した。今回の分析では脳波の画像化に加え、脳波改善の指標として(α 波の出現率)/(θ 波の出現率)を α/θ 比と名づけて算出することとし、塩酸ピフェメラン投与前後でこの α/θ 比に有意な増減がみられるかどうかを、各誘導毎に、対応のあるWilcoxon検定で検定した。

結果:

結果は、投薬1週間後にはFP1, FP2, F3, O1, F7, F8, T4, T5, T6及び全誘導の平均、左側誘導の平均

において、 α/θ 比の有意な上昇、即ち脳波の改善が認められたが、投薬2週間後では有意な α/θ 比の変化はFP1でのみ認められるというものであった。また、画像化脳波でも同様の所見、即ち投薬1週間後で著明な脳波所見の改善をみるも、その後もとに戻るといった傾向を示した。

考察:

向知性薬の効果判定にあたっては、定量的脳波分析が有効な手段のひとつとして一般化しつつあるように思われる。また、脳波検査の本来の特徴である非侵襲性に加えて、定量的脳波分析によってCTやMRIなどからは把握の困難な脳機能の経時的変化を知る事は、今後、臨床レベルでの薬効判定の補助手段としても大いに役立つものと期待される。

現在の向知性薬では痴呆症状の恒常的改善は無理だが、リハビリテーション等の治療の導入に一定の有効性が期待出来ると思われる。

19) 県立小出病院精神科外来患者12年間の推移(1977~1989)

高橋 邦明(新潟大学精神科)
須賀 良一(中条病院精神科)
本田 建一(新潟県立小出病院精神科)

1. はじめに

県立小出病院精神科は、平成2年3月末日現在で、総合病院370床の中の100床を占めており、魚沼地方の精神科地域医療の中核として、重要な位置を占めている。

我々は小出病院精神科外来の動向を調べるために、第I期として昭和52年7月1日から翌53年6月30日まで、第II期として昭和57年7月1日から翌58年6月30日まで、第III期として昭和63年7月1日から平成元年6月30日まで、という3つの期間の外来新来患者について比較検討した。

2. 対象と方法

対象は、第I期、第II期、第III期に、外来を初診した患者784名で、このうち次の者は除外した。

① 診断基準に基づいて除外した精神障害以外の疾患、例えば、てんかん、失語症、腫瘍などの器質的疾患。

② 遺伝相談や健康診断書のために来院した者。

これらの者を除外した704名の、性別、年齢、初診日、診断名、居住地について調査した。

疾患の分類は、各カルテに記載されている症状をもとに、DSM-III-Rに基づいて、操作的に再分類を行なった。